

留 学 報 告 書

学 部

法文学部言語文化学科

氏 名

京面華菜恵

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 フロリダ大学

現地到着日 (2017年 8月 15日) 授業開始日 (2017年 8月 18日)

現地出発日 (2018年 5月 10日) 授業終了日 (2018年 5月 3日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

・航空券を早めに購入する (出発の8月はハイシーズンなので早めに予約しないと高額になる)

・大学からEメールで送られてくる書類 (預金残高証明を英文で発行、入学書類、予防接種証明書、) の記入を期日までに行い提出する

・予防接種を受け英文の予防接種証明書を発行する (小児科だとすべての予防接種が揃いやすい) (松江ではやましろクリニックが英文の予防接種証明書を発行してくれる)

・現地で住む場所を探す (オンキャンパスの寮に住む場合: 必要書類の提出者から先着で入寮者が決まるため、書類の記入に早めに取り掛かると良い、オフキャンパス: 申し込みに連帯保証人や保険加入などの条件があるので早めに済ませると後が楽。)

・ビザの所得 (オンラインでの手続きと支払い、大使館での面接と発行)

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

自宅→新幹線&電車：約7時間→成田国際空港(NRT)→飛行機：約14時間→アトランタ国際空港(ATL)→飛行機：約2時間→オーランド国際空港(MCO)→知人の車：約2時間半→ゲインズビル

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

到着時：事前にオリエンテーションの案内がEメールで届くのでそれに従う。指定された期日に指定された持参物を持ち、大学内HUBのInternational Centerでチェックイン手続きを行う。その際にオリエンテーションがあり大学についてや必要な行政手続きについても説明を受ける。

その他：病気やアメリカ国外への旅行許可など基本的なことはまずHUBのInternational Centerに尋ねるとなんでも解決できる。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

r

先立ってEメールで送った提出書類に不備がある場合はその説明が行われる。他には学校生活や緊急時について、行政手続きに関しては運転免許の所得や市民カードの登録の説明、飲酒について、保険の登録の仕方やゲインズビルの街についての説明がされた。

フロリダでは州の法律で国際免許は1ヶ月しか使えないので、長期滞在者で車を運転したい場合はまず市民カードを発行し、現地で運転免許を所得する必要がある。

市民カードを発行することを勧められるが、運転免許を所得しない人は飲酒の際のIDもパスポートで大丈夫で市民カードは必要ないので私は発行しなかった。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業：

大半の先生はパワーポイントのスライドで授業を進める。授業後にスライドを生徒がアクセスできるEラーニングで共有してくれる先生と、そうでない先生とに分かれる。スライドが共有される場合は、授業中は必要なことのみをメモし基本講義を聞くことに集中した。授業前に予習をしてから講義を聞いていれば、予習の範囲と同じ内容を先生が抗議するので理解度を高められるし、板書は間に合わなくても焦らない。

全体的に生徒と先生のやり取りが活発で、生徒は積極的に質問やコメントをしていた。ディスカッションや

グループワークの回数も多く、話し合いに参加しなければ減点ということもあった。

試験：

生徒数の多い授業はテストがマーク形式になることが多かったが割合的にはマークと記述で半々だった。どちらのテストも時間に不安があれば事前に申し出ることで試験時間を延長してくれた。ただ、先生のポリシーで特別措置が認められないこともあるので、特に記述の場合は事前に回答を用意しておくことを勧める。先生によってはテスト前に授業でテスト範囲の復習をしたり、練習問題やテスト勉強をするときに役立つスタディガイドを出してくれるのでそれに従いきちんと範囲を網羅していれば基本的に問題はない。

電子辞書を持ち込むことも申し出れば可能だが、授業で馴染みのある言葉や表現以外はテストに出ないので使うことはなかった。また、わからない単語は試験中に試験官に聞けば答えられる範囲で回答してくれるのでその方が他の生徒とも平等な環境で試験を受けられるので良いと感じた。

例え、テストの点数が悪くてもそれ以外の宿題やエッセイなどの課題点と無告知で時々出されるエキストラクレジット課題を地道に行っていれば最終成績に響くことはあまり無かったので普段の課題をおろそかにしなければ問題ない。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

ListenigとInterpersonal Communicationはコミュニケーション学の観点から自身のコミュニケーションの仕方や国による違いを学べたので、現地で様々な国のルーツを持つ人と出会い話すときにとても役に立った。そして先生の話がとても面白いので講義が楽しかった。

Language and Cultureは言葉と文化について学びたい人にはオススメ。文化人類学の観点ではあるが密接なつながりや主要な理論を学べる。

Humanity Perspectives on Gender and Sexualityは課題エッセイや記述試験、予習での論文読み込みなどきついことばかりではあるが、日本人としてまだ理解が浅いLGBTQや人種差別、性の自由などについて論文から新しい考え方が得られたので物事を見る観点が新た加わり個人的に発見の多い授業だった。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

選択肢は2つある。大学内にある留学生用の寮に住むか、オフキャンパスのアパートで暮らす。 D

大学内の寮：○オンキャンパスなので通学時間が短い、オフキャンパスに比べると家賃が安い、サブリース

をする必要がないいろんな国の人と友達になれる。△場合によっては一つの部屋を数人でシェアして暮らすので気疲れすることもある。長期休暇中（冬、春(?)、夏）は追い出される。

オフキャンパスのアパート：○個人の風呂・トイレと部屋があるので比較的リラックスできる、ルームメイトと暮らすので細かな生活から文化や生活スタイルの違いがわかる、ルームメイトと常に英語を話せる。△家賃がオンキャンパスと比べると高い(\$450~500)、オンキャンパスと比べると通学に時間がかかる(私は20分)、アパート契約が基本丸一年で途中解約できないので帰国時には代わりに残りの3ヶ月住んでもらう人を探す(サブリース) 必要がある。オフキャンパスのほとんどの生徒がサブリースするのでなかなか見つからないし手続きのお金もかかる。

個人的にはサブリースや家賃でストレスに感じることもあるが、ルームメイトと料理をしたり行事やパーティーを楽しんだり、オフキャンパスの店に出かけることも多かったので、アパートの暮らしがとても快適で楽しかった。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

オフキャンパスのアパートはサブリースの相手を探すのがとても大変でストレスになるので、春学期が始まった頃から早めに取り掛かることを勧める。もちろんサブリースせずに3ヶ月分住んでいない部屋の家賃を払うことも手段としてはあるが、できるなら損をしないギリギリまで家賃の値下げをして交渉し、少しでもお金の無駄遣いを減らす方が良いと思う。

行事やイベントに誘われたら積極的に参加した方が様々な視点から物事を見れるし、人との出会いも増えるので留学がより実りのあるものになる。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

銀行口座の開設と支払い：

大学内に銀行が幾つかあるので私はWells Fargoで口座を開き、基本支払いはすべてそこで発行したデビットカードか、現金を引き出して行った。日本で作ったクレジットカードでの支払いも可能だが、アメリカは基本カード払いなのに限度額が低い、決済の際手数料が高い、現金が引き出せない、そしてローカルな店だと対応しておらず支払いができなかったこともあるので、よほどのことがない限りクレカを利用しなかった。

生活費の送金方法：

留学して最初は日本の銀行から国際送金をしていて高額な手数料がかかるので、途中から日本に口座があればその口座に日本円を振り込んでおくことでアメリカのドルを現地のATMから引き出せるネオマネーカードに変更した。その方が両親も生活費の振り込みが簡単で私もドル現金の引き出しが簡単にできた。

アメリカはカード決済社会とはいえ、現金のみのレストランやチップの支払いもあるのである程度の現金は持っておいたほうが良い。

スキミングやカード紛失などのトラブルはなかったが、日本以上に貴重品の管理には細心の注意を払っていた。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

基本的に留学生はHUBのInternational Centerに行けばほとんどの問題が解決できる。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

普段の食べ物や日用品の買い物はPublixやTarget、Walmartで済ませた。アメリカのAmazon Primeに登録するとレンタルが売り切れた時に教科書など送料無料で購入できるので便利。

レストランは様々な国スタイルのレストランがあるので友達に聞くなどして行ってみるとどんどん開拓できて楽しいと思う。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

高速バスが時間通りに出発到着しないのは当たり前で、それを知らずに空港までのバスに乗っていたらバスが50分遅れた。その結果飛行機に乗り遅れてしまった。日本のように運航スケジュール通りにはいかないの
で時間に余裕を持った移動計画を立てると良いかもしれない。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

病気にはかからなかったが、オンキャンパスに保健管理センターがあるのでそこを利用すると便利だと聞いた。保健は渡航前のEメールで紹介された民間の保健プランを契約した。大学の保険プランは高いと聞いた。

15. お世話になった方々

CCH(Christian Campus House)の方々、クラスメート、オーランドのホストファミリー、ルームメイトとその家族

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

<冬休み>

カナダ(ナイアガラの滝、ノートルダム大聖堂)、NYC、ウェストヴァージニア、テネシー

移動手段：ゲインズビル空港→飛行機（シャーロット空港乗り換え）→ナイアガラ空港→バス→**ナイアガラの滝（カナダ側1泊）**→夜行バス（トロント乗り換え）→モントリール（ノートルダム大聖堂）（1泊）→夜行バス（乗り換え）→NYC観光（2泊）→夜行バス→ワシントンDC→アムトラック（電車）→ウェストヴァージニア（2週間ルームメイトの実家に宿泊）→ルームメイトの運転→テネシー→知人の運転→ゲインズビル

費用：飛行機\$490、バス合計\$100、電車\$240、宿泊合計\$120、食費\$180

<帰国直前>

カリフォルニア2泊

移動手段：ゲインズビル空港→サンフランシスコ空港（シャーロット空港乗り換え）→友人の運転→デビリス（友人宅宿泊）

<TOEIC受験>

フォートローダーデール

ゲインズビル→オーランド→フォートローダーデール（すべて夜行バス移動、車中泊）

費用：\$100

<その他>セイントオーガスティン、ユニバーサルオーランド（友人の運転）

17. 気候と服装について

8月から11月まで温かく（暑い）、半袖または半袖＋上着一枚や薄手の長袖で十分。12月あたりに最高気温が10℃～15℃の週が3週間に一度ぐらいであるのでその時期はセーターや厚手のパーカーがあれば助かる。学生はラフな服装で学校に来るので、ファッションにこだわらないのであれば現地で新品なり古着なり調達できる。逆に週末の休日はしっかりドレスアップするのでメリハリがあってもいいかもしれない。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

・麺類や味噌汁、寿司やコメなどの日本食や醤油といった調味料は現地で調達できるので日本食ロスになることはない。

・衣服も現地で安い服を買えば帰りは捨てるので荷物が少なくなって楽。アメリカのトレンドや普段着の基準が日本と違うので現地調達するのも楽しみの1つになる。

・風邪薬など売っているが日本から持っていけると安心。風邪気味でもアメリカではマスクを着用する人はめったにいない。

・フロリダ州の法律で渡航者は1ヶ月までしか国際免許で自動車を運転できないため、国際免許を持っていてもあまり意味はない。州外を旅行するときは便利かもしれない。現地で免許を所得するつもりなら国際免許を事前に申請しておいたほうが役に立つ。ただ、現地で運転免許を所得するには行政の手続きが複雑な上に自動車学校はないためお金と時間がかかる。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

すべて人に聞いた。本やインターネットは便利だが人に聞いたほうがもっとリアルな実情が聞けるので面白い。

20. ホームステイの依頼方法

もともと連絡を取り合っていた方がいたので、早めに連絡して相手の仕事などに支障がない範囲で期日を決めた。サンクスギビングホリデー、春休み、帰国前それぞれ2日ずつお世話になった。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) _____ 13万円, (復) _____	10万円
2) 準備費用 (ビザ所得、予防接種、アパート家賃etc)	_____	10万円
3) 大学へ納入する費用	_____	0円
授業料 (年間合計=島根大学へ納入)	_____	50万円
保険等その他の費用	_____	10万円
4) 住居費 (光熱費等含む) \$510*10+サブリース代	_____	61万円
5) 衣服代, その他雑費(食費etc.)	_____	50万円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	_____	3万円
7) 留学先国内旅行費用	_____	20万円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	_____	約230万円
現地通貨 \$22000	_____	日本円換算 約230万円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

郵送は荷物の重さで値段が決まるので、郵送費よりスーツケースを2つにして飛行機の預け入れ荷物として持って帰る方が断然お得。預け入れ荷物は重量制限が軽いので、スーツケースには圧縮袋に入れてコンパクトにした衣類と軽いものを詰めた。機内持ち込み荷物は2つまで大丈夫なので本などの重い荷物はリュックともう一つのサブバックに入れて機内持ち込み荷物にした。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

何事も自分で考えて、誰かの動きや助けを待たずに瞬時に冷静に判断し、行動することが大事であると気づいた。その一方で、わからないことは少しでも疑問に思うことがあれば躊躇せずに聞いて正しい情報をいち早く手に入れることも困難な状況を乗り越える時には必要と分かった。

たくさんの友人が恩返ししきれないほどのたくさん助けてくれたけれど、それは当たり前という、見返りを求めない優しさをとても感じた。

何か人と違うことをしていても、その人に目的意識がありきちんと実現に向けて行動していれば、「例外」や「変」として扱われずにまずは尊重される場所は、できないことや大衆から外れたことをすることを恥として捉える日本とは違うと感じた。また、基本的に人を褒めることがとても上手なところも素敵だなと感じた。